

小学校 生活

1 教育課程実施上のポイント

(1) 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

生活科の目標の(1)、(2)、(3)には育成を目指す資質・能力が示されている。

(1)では「**知識及び技能の基礎**（生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか）」を、(2)では「**思考力、判断力、表現力等の基礎**（生活の中で、気付いたこと、できるようになったことを使って、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか）」を、(3)では「**学びに向かう力、人間性等**（どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか）」を示している。

(2) 実施上のポイント

①改訂のポイント

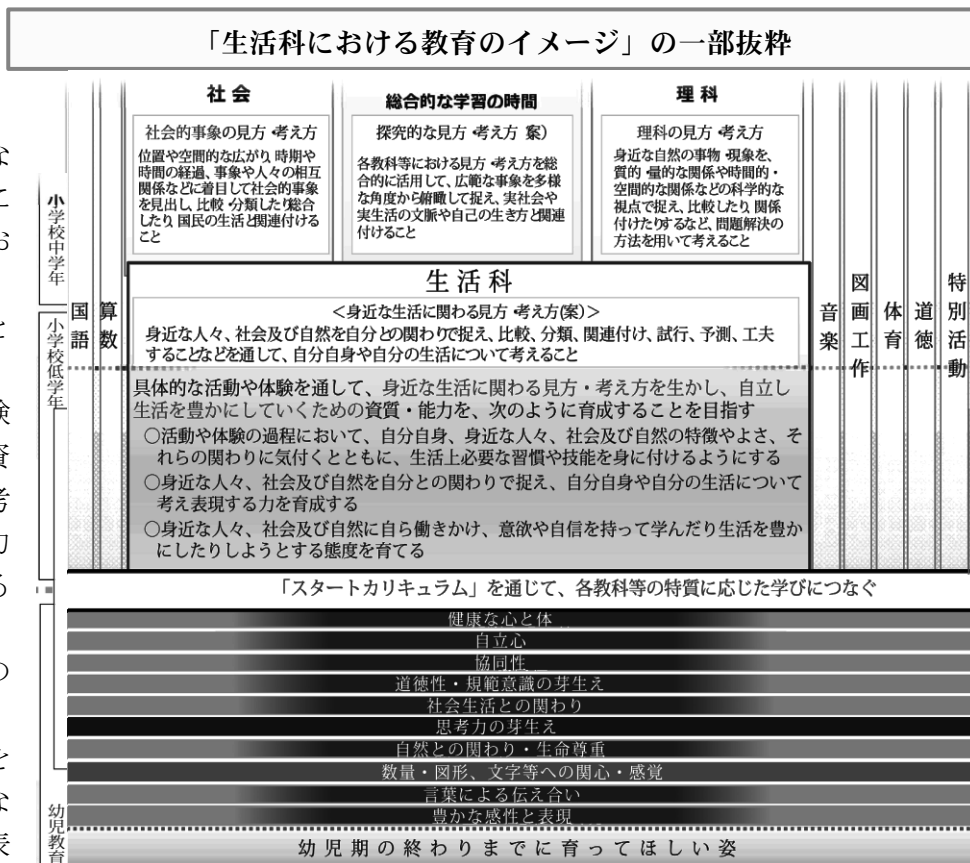
◇基本的な考え方

・幼児期の教育とのつながりや小学校低学年における各教科等における学習との関係性、中学年以降の学習とのつながりも踏まえ、具体的な活動や体験を通して育成する資質・能力（特に「思考力、判断力、表現力等」）が具体的になるよう見直した。

◇学習内容、学習指導の改善・充実

・具体的な活動や体験を通じて、どのような「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指すのかが具体的になるよう、各内容項目を見直した。

・具体的な活動や体験を通して気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、活動や体験を通して気付いたことなどについて多様に表現し考えたり、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動を行ったりする活動を重視した。



- ・動物の飼育や植物の栽培などの活動は2学年間にわたって取り扱い、引き続き重視する。
- ・各教科等との関連を積極的に図り、低学年教育全体の充実を図り、中学年以降の教育に円滑に移行することを明示した。特に、幼児期における遊びを通した総合的な学びから、各教科等における、より自覚的な学びに円滑に移行できるよう、入学当初において、生活科を中心とした合科的・関連的な指導などの工夫（スタートカリキュラム）を行うことを明示した。

幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は児童期の初期に目指す姿とも重なります。こうした具体的な育ちの姿を踏まえて教育課程をつないでいきましょう。



②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

◇生活科の学習指導は、これまでと同様に、児童の思いや願いを実現する体験活動を充実させるとともに、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行きつ戻りつする相互作用を意識し、以下の点に留意することが重要である。

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科では、児童の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促してきた。こうした点に加えて、表現を行い伝え合う活動の充実を図るようにする。 ・学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし挑戦していこうとする子供の姿を生み出す。こうしたサイクルが学びに向かう力等を育成するものと捉え、指導に生かすようにする。
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・生活科では、身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組んだり、伝え合ったり交流したりすることを大切にしたりするようにする。伝え合い交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気づきが生まれたり、関係が明らかになったりすることを踏まえ、他者との協働や伝え合い交流する活動により、児童の学びを質的に高めるようにする。 ・双方向性のある活動が行われ、対象と直接関わり、対象とのやり取りをする中で、感じ、考え、気付くなどして対話的な学びが豊かに展開されるようにする。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや願いを実現していく過程において「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、新たな気づきを生み出し関係的な気づきを獲得するようにする。 ・低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教員の関わりを実現していく。

<学習過程>



生活科の学びの過程では、やってみたい、してみたいと自分の思いや願いをもち、具体的な活動や体験を行い、感じたり考えたりしたことを表現していくプロセスが大切です。

③見方・考え方について

身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事	
見方	<p><身近な生活を捉える視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活における人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかという視点
考え方	<p><自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程の中にある思考></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の生活について考えることやそのための方法

(3) 評価について

① 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

② 内容のまとめりごとの「評価規準」を作成する際の手順について

小学校生活科における内容のまとめりとは、内容の(1)～(9)のことである。

まず、学習指導要領に示された教科及び学年の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解する。その上で、**手順1**及び**手順2**の手順を踏む。

手順1 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

例) 第1学年及び第2学年 内容(1)

内容(1) 学校生活に関わる活動を通して、 <u>学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々</u> などについて考えることができ、 <u>学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、 楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。</u>	波線 → 「～ができ」(思考力・判断力・表現力等の基礎) 二重線 → 「～が分かり・～に気付き」(知識及び技能の基礎) 点線 → 「～したりしようとする」(学びに向かう力、人間性等)
---	---

手順2 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

◇観点ごとのポイント

○「知識・技能」のポイント 二重線部分の記載事項の文末を「分かる」から「分かっている」とすることにより、内容のまとめりに対応する評価規準を作成することが可能である。
○「思考・判断・表現」のポイント 波線部分の記載事項の文末を「考えることができる」から「考えている」とすることにより、内容のまとめりに対応する評価規準を作成することが可能である。
○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント 点線部分の記載事項の文末を「したりしようとする」から「したりしようとしている」とすることにより、内容のまとめりに対応する評価規準を作成することが可能である。

◇学習指導要領の「2 内容」及び「内容のまとめりごとの評価規準(例)」

学習指導要領 2 内容	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが <u>分かる</u> 。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて <u>考えることができる</u> 。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校を <u>したりしようとする</u> 。
内容のまとめりごとの評価規準 例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが <u>分かっている</u> 。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて <u>考えている</u> 。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校を <u>したりしようとして</u> いる。

2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

(1) 単元名 あきランドであそぼう (第1学年)

(2) 単元目標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

(3) 単元の評価規準

単元の評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。		秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。
小単元における評価規準	1	①校庭や公園の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気付いている。	①楽しみたい遊びを思い描きながら、校庭や公園の秋の自然の中から遊びに使う物を選んでいる。 ②諸感覚を生かして、校庭や公園の秋の自然に関わっている。	①秋の自然を楽しみたいという思いや願いをもって、校庭や公園の秋の自然と繰り返し触れ合おうとしている。
	2	②校庭や公園の秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。	③遊びの約束やルールなどを工夫しながら、遊んでいる。 ④比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを楽しんでいる。	②校庭や公園の秋の自然の様子や特徴に応じながら、それらと関わろうとしている。
	3	③みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。 ④遊びには約束やルールや大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。		③みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

(4) 指導と評価の計画 (17時間)

小単元名(時間)	学習活動	子どもの意識の流れ	評価規準・評価方法
1 あきのたからものをみつけよう (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> ※教室に秋の木の実や落ち葉、秋に関する絵本などを置いておく。 ・校庭で秋見付けをする。 ・秋について知っていることや園などで経験したことがある遊びなどを出し合う。 ・校庭や公園などで秋見付けを繰り返し行ったり、気付いたことを自分なりの方法で表したりする。 	<p style="text-align: center;">環境構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉っぱの色が変わってきたね。 ・キンモクセイのにおいがするよ。 ・どんぐりが落ちていたよ。 ・どんぐりごまをつくれそうだ。 <p style="text-align: center;">体験活動と表現活動の繰り返し</p>	<p>態①・行動観察、発言分析 思①・発言分析</p> <p>知①・行動観察、発言分析 思②・行動観察、発言分析</p>
2 あきのたからものでつくってあそぼう (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然を利用して遊ぶ。 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動 ・秋の自然や身近にある物を利用して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、作った 	<ul style="list-style-type: none"> ・何がつかれるか、調べてみよう。空き箱も用意しよう。 ・みんなと一緒に遊んでみたい。 ・どうしたらごまがよくまわるかな。友達のごまと比べてみよう。 ・みんなからのアドバイスを生かしておもちゃやルールを変 	<p>知②・行動観察、発言や振り返りの記述の分析 思③・行動観察、発言や振り返りの記述の分析</p> <p>思④・行動観察、発言や表現物及び日記の分析 態②・行動観察、発言や表</p>

	物を使って遊んだりする。	えてみよう。	現物及び日記の分析
3 あそぼう あきランド (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> 「あきまつり」を開いて、みんなで楽しく遊ぶ。 これまでの活動を振り返り、秋の思い出や秋の自然と自分との関わりなどについて、言葉や絵で表現したり、伝え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったな。また一緒に遊びたいな。 いろいろな秋を見つけたよ。 秋の自然物でいろいろなおもちゃをつかって、遊んで楽しかったな。 	知③・行動観察 知④・行動観察、発言や振り返り及び表現物の分析 態③・行動観察、発言や表現物及び日記の分析

生活科においては、気付きの質の高まりが、深い学びとなります。気付きの質を高めるために、体験活動と表現活動が連続的・発展的に繰り返される単元を構成しましょう。



(5) 授業展開例

①本時の目標

あきランドに向けて、もっと楽しくなるおもちゃにするためにはどうしたらよいか考え、おもちゃや遊び方を工夫している。

②展開例

学習活動	○主な発問 ・ 予想される児童の反応	・ 留意点 ◎評価
1 本時のめあてを確認する		【10の視点】 ①魅力的な課題・教材
あきランドでもっと楽しくあそべるように、おもちゃのあそびかたをくふうしよう。		
2 おもちゃで遊びながら遊び方の工夫をしたり、進化させたりする。 ・気付いたことを友達にアドバイスをする。 ＜視点＞ 遊び方の工夫（ルール） 改良点	○おもちゃで遊んで、友達にアドバイスをしましょう。 【どんぐりごま】 <ul style="list-style-type: none"> 軸が長いこまもほしいな。 回し方のコツを教えてください。 【けん玉】 <ul style="list-style-type: none"> カップの大きさが違うとおもしろいね。 回数を決めて競争したらいいね。 【どんぐり迷路】 <ul style="list-style-type: none"> 時間を計ったらいいかもしれないね。 落とし穴もあるとおもしろいよ。 【くつつき虫的当て】 <ul style="list-style-type: none"> 投げる場所をいくつかテープで印をつけよう。 一人の回数を決めておいたらどうかな。 	【10の視点】 ⑥学び合う活動の充実 小グループによる体験活動や、気付きをすぐに伝え合い修正し合う場を設定することで、比較したり、試したり、工夫したりする多様な活動が連続的に行われ、気付きの質が高まっています。
3 振り返りをする。	○遊び方の工夫をしたことを振り返りましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ルールを変えると、友だちも楽しめると思う。 点を決めて競争すると、より楽しかった。 こまをつくる時、〇〇さんが上手にできる方法を教えてくれた。 	◎思③④ 発言、行動観察、ワークシート
4 本時のまとめと次時の予告をする。	振り返り活動で自分の思いを言語化することで、無自覚だった気付きが自覚化され、個別の気付きが関連付けられたり、自分自身についての気付きが生まれたりします。こうした気付きの質の高まりは、満足感や成就感、自信となり、次の体験への安定的で持続的な意欲につながっていきます。	
		【10の視点】 ⑧学習を振り返る活動の設定